

長野県図書館協会 図書館職員等ステップアップ研修

パスファインダー・ワークショップのまとめ

長野県図書館協会は、2017年、2018年にパスファインダーの研修を3回行いました。その際に実施したワークショップのまとめを掲載します。

1. ワークショップの感想
2. 講師のコメント

ワークショップの内容

- ◆ 2017年8月25日 会場：駒ヶ根市立赤穂南小学校
- ◆ 2017年9月29日 会場：長野市立篠ノ井西小学校
 - A 小学校3年国語の「すがたをかえる大豆」から既成のPF「すがたをかえる食品 麦」をカスタマイズする。
 - B 中学校1年理科の「火山」から既成のPF「火山」をカスタマイズする。
- ◆ 2018年7月31日 会場：小諸市立水明小学校
 - A 小学校6年理科「人と環境」の単元の学習では、「生活と空気の関係やきれいな空気を保つとくみ」「水の使われ方と水をきれいにするとくみ」の調べ学習をする。それに役立つパスファインダーを作成する。
 - B 中学校2年国語では、「多様な方法で情報を集めよう | 職業ガイドを作る」にあるように、職業ガイドを作る。それに役立つパスファインダーを作成する。

1. ワークショップの感想から

1.1 工夫したこと・うまくいったこと

【トピック】

- 最近の話題なので、調べる意識は高まった。(駒ヶ根)
- 火山活動の中の災害である地震を選んだことにより、我々の地域に身近な内容となった。(長野)

【キーワード】

- たくさんキーワードが出せた。(駒ヶ根)
- キーワードに食品だけではないものも入れることができた。(駒ヶ根)
- キーワード、小学生使用にする。(駒ヶ根)
- キーワード、教科書の言葉と重なるようにトピックを考えた。(駒ヶ根)
- イメージをふくらませた。(例「牛」)(長野)
- 自校にある本から使えそうなキーワードを設定すると調べやすい。(長野)
- 考えられるキーワードが多岐にわたり、何を入れたら良いのか判断がむずかしい。(長野)
- 子どもの目線でキーワードを考えてみた。(長野)
- 子どもたちにもわかりやすい表現や漢字を使うと良い。(長野)
- キーワードのヒントとして、関連する資料を調べたら、多くのキーワードがでてきた。(小諸)
- キーワードをあげる時、本日教えていただいた国立国会図書館のリサーチナビやインターネットや教科書を活用し、グループ内で分担して効率的に探せてよかった。(小諸)
- 一人でなく、自分では気づかないようなワードを言ってくださったので参考になりました。(小諸)
- 相談しながら出来たこと。学級担任も入った方がキーワードが出やすい。(小諸)
- キーワードから仕事の内容が広がるように考えました。(小諸)

【調べる・その他】

- 世界に目を向けられた。(駒ヶ根)
- 幅広い分類に広げられる。(駒ヶ根)
- まず百科事典を引いてみようかと案内するとよい。(長野)
- サイトは子どもが見るものとしての配慮をしたい。(長野)
- グループワークにさせていただいたことが時間とのかねあいからも、とてもよかった。(小諸)
- 事前に調べてきた資料を使うことができました。(小諸)

1.2 困難だったこと・不明点・疑問点

【トピック】

- 「噴火」でも少しテーマが大きかった。(駒ヶ根)
- トピックを決めるのに時間がかかりました。(小諸)
- トピックのねらいを作るのがむずかしかった。(小諸)

【キーワード】

- 子供が知らないキーワードを入れていいのか。(駒ヶ根)
- 予想外のキーワードへの対照 (駒ヶ根)
- キーワードが大人でも出てこないところがあった。(駒ヶ根)

【PC 操作】

- 文字の変換に苦労した。(長野)
- 操作方法が不明な点があった。(小諸)
- 変換で時間がかかった。(小諸)

【ウェブサイト】

- 食物油の会社のホームページに入ることができなかった。(駒ヶ根)
- ネットで調べては本末転倒？(長野)
- ネットの信頼性に不安を感じた。(確認するには？ どうしたらいいか) (長野)

【ワークショップ】

- 時間が不足した。(長野)
- 時間が足りず、最後までできなかった。(長野)
- 本を実際に見て調べることができないため、詳細な資料を入力することができず残念。(長野)
- 実際の資料が手元がないのでより詳細な資料を選べなかった。(長野)
- 概要の所に資料リスト分の 5 冊を入れてしまいロスタイムだった。(小諸)
- パスファインダーというイメージがつきにくく、はじめからとまどってしまいました。(小諸)
- 時間をうまく利用できずに進められなかった。(小諸)

【その他】

- 担任としてはどこまで立ち入れるのか。(小諸)

1.3 全体の感想

【パスファインダー】

- テーマから広がりすぎてしまうので、グループごと等でしぼって調べることが必要。(駒ヶ根)
- キーワードをひろっていくと、テーマが広がってってしまう。(駒ヶ根)
- 単語が出てこない。(駒ヶ根)
- トピックの設定がむずかかった。(駒ヶ根)
- 御嶽山の噴火が身近にあったので覚えていた。(駒ヶ根)
- 資料を多く思いついた。(駒ヶ根)
- トピックを選ぶまでに時間がかかってしまった。(長野)
- キーワードを 20 個考えることが意外と大変だと思った。(長野)

- もっとわかりやすい資料を絞る方法（例：自館にある本、公共にある本）があるといいと思った。（長野）
- テーマをしぼるのがむずかしい。（長野）
- 活用できるようになると便利だなあと感じた。（小諸）
- トピック名を決めるのが難しい（漠然としてしまった）。（小諸）
- サービスにかかわる仕事というトピックにしましたが、幅広すぎて、もう少し絞れば良かったかと思いました。（小諸）
- パスファインダーの作る流れが順序だてて学べて勉強になった。（小諸）
- 自分の選んだ資料が、テーマに合っているのか、その妥当性の確認が少し不安になった。（小諸）
- パン職人といっても、キーワードがたくさんできて、幅広い知識が必要だと思いました。（小諸）
- 自動的にふりがなができるといいなあと感じました。（小諸）
- フリガナは自動入力になればいいなと感じました。（小諸）
- 入力する項目が沢山あって大変です。（小諸）

【ワークショップ】

- 若い方はインターネットを使っただけの感想が早い。（駒ヶ根）
- 時間が足りず残念でした。（駒ヶ根）
- 私たち皆、こういったデータベースを使ったことがないため、とまどってしまった。ただ、これを使えるようになり、多くのパスファインダーができるようになると、今後の教育等でも役立つと思った。（長野）
- 時間が少なかったため、もっといろんな本を吟味してみたいです。（小諸）
- グループワークなのでアイデアを出しあえて個人だけだと浮かばない内容もだしあえて良かった。（小諸）

【学校の実情】

- 情報をすぐ取り入れられない環境、パソコン環境（駒ヶ根）
- 調べ学習の本の利用が少ないため、たくさん本を入れられない。予算が少ない。（駒ヶ根）
- 授業の予告（調べ学習）を教えてください。（駒ヶ根）

【その他】

- 公立図書館の連携必要。（駒ヶ根）
- 中学の理科は難しい。（長野）

- 教科書を知っておかなければならない。(長野)
- 事前の百科事典の使い方をやっておいた方が良い。(長野)
- つくったものをぜひ印刷したい。(子どもに活用させるには、またもう一つアクションが必要)(小諸)
- イメージに頼りがちですが、実際に本やインターネットで調べることで具体的な案内ができると感じました。(小諸)

2. コメント

2.1 トピックの決め方、ねらいの書きかた

- トピックを決めるのが難しかったグループもあったようです。従来の調べ学習のテーマよりも範囲が狭いので、慣れるまで難しく感じるかもしれません。
- 「御嶽山」のように、身近なトピックにしたので取り組みやすかったという感想がありました。このような身近な話題は、子どもたちにとっても身近に感じられますので、主体的に学ぶ契機になりますね。トピック数は多い方がよいので、あまり窮屈に考えないで、たくさんのパスファインダーを作っていくください。
- 「すがたをかえる食品」の教材では、「とうもろこし」「たまご」「牛乳」「米」「麦」などのトピックが選ばれました。こんなふうにはたくさんのパスファインダーがあれば、子どもたちがそれぞれ違うことがらに取組むのも楽になります。また、図書館としても、資料の数やレファレンスの対応などで助かります。
- ねらいの書きかたも、最初は難しいと思われるかもしれませんが、なぜそのトピックを選んだかということから考えていくと、自然に文ができるでしょう。

2.2 キーワード

- キーワードには、発想を広げるという役割と、検索の際のカギになることばとなるという役割があります。後者の場合、的確な言葉を提示することで、検索が楽になるはずですが。NDLの件名や、『ポプラディア』の索引の用語などを参考にするとよいでしょう。
- 子どもが知らないキーワードも入れてよいと思います。
- 「子どもに理解できる言葉にする」という配慮は大事ですが、図書館の資料を探したり、ネットで検索したりするときにキーワードを使いますので、そこにある言葉でないと検出されません。小学校では、『ポプラディア』の索引にあるかどうか、という基準で選んでみてもいいかもしれません。『ポプラディア』でも、たいていの熟語は漢字で書かれていますが、濾過は、「ろ過」となっていました。

2.3 ウェブサイト

- ネットで調べては本末転倒……ということはないですが、安易にネットを使って、情報を精査しないでそのまま使ってしまう、ということはあるがちなことです。これからは、教師も司書も、子どもたちが的確にウェブ情報を利用できるよう導いていきたいものですね。

- ネット情報の信頼性は、最終的には利用する人の判断によります。その判断力は、それまでその人が身に付けた知識や判断力が基盤になります。したがって、まだ知識や経験の乏しい子どもたちがネット情報だけに頼るのは困ります。これからは、ますます、子どもたちが図書や雑誌・新聞などの活字メディアと web メディアとを上手に使えるようになっていく必要があります。
- 信頼できる情報かどうかを判断する手段として、だれが発信しているかを知ることが大きなポイントになります。そのことがわからないサイトは、原則として調べものでは使わない方がよいでしょう。また、まとめサイトの場合は、その情報源の元のページを確認する必要があります。
- 比較的信頼できるサイトとして、国や行政機関、学術団体の提供するページがあります。この場合は、URL からドメインを確認します。日本の政府機関の場合、ドメインは「.go.jp」になります（巻末資料を参考にしてください）。また、ドメイン名はバラバラですが、日本図書館協会（JLA）のように職能団体や公益法人などの団体のサイトも、比較的信頼できる情報といえましょう。

2.4 教科担当者との話し合い

- 小諸では、教師の方の参加もありました。「学級担任も入った方がキーワードが出しやすい」という感想がありました。そうだろうと思います。調べ学習のときには、ぜひ、先生方と司書と、お互いにコミュニケーションをとってください。「担任としてはどこまで立ち入れるのか」という質問がありました。この質問だけでは、「立ち入る」のは、子どもに対してなのか、図書館サービスについてのことなのかわかりませんが、いずれにしても、教師と司書が十分にコミュニケーションをとるとよいと思います。

2.5 ワークショップ

- 時間が足りなかったこと、お詫びいたします。パスファインダーの説明と入力の仕方と併せてワークショップをするというのは、やはり半日では難しいですね。内容を分割して開催するか、時間を延長するか、課題分を増やすか、など何らかの対策が必要のようです。

2.6 作成したパスファインダー、作成中のパスファインダー

- 小諸市で受講された方の分は、校正記録をまとめましたので、今後作成するときの参考にしてください。
- 駒ヶ根と長野市で受講された方の分は、それぞれの資料数が少ないので個別のパスファインダーを作成することができませんでした。再チャレンジしてください。
- 校正は、書誌事項の確認を中心に、かなり細かく修正しています。ここまで細かく入力に気を配らなくてはいけぬのか。それなら大変、と思われるかもしれませんが、けれど、校正は、2つの点で重要だと思っています。

理由 1) 自館にない資料を探したり参考になる資料を求めたりするとき、他の図書館の OPAC や書店のサイトで調べることは、よくあることと思います。その際、同じような資料なのに、同じ本なのか、違う本なのか、違うとしたら何が違うのかわからない、と思ったことはありませんか？ OPAC や書店のデータは原則として整っていますが、たまに不備があって、同じ本なのに別の本の扱いになっていることがあります。協会の「学校図書館・しらべ案内(探求ナビ)」でも、できるだけそれは避けたいと考えています。多

数の人が共同で作成していくものですから、一定のルールに従って目録を作成したり、記載の仕方を統一していった方がよいのです。利用する側のとまどいも少なくなります。

決まりに沿って入力するのは難しいと思われるかもしれませんが、協会の方で校正しますので、あまり難しく考えなくても大丈夫です。

理由 2) 学術雑誌には、投稿規程があります。原稿の段階から、あらかじめ決められた表記の仕方を書きます。その決まりに沿っていない原稿は編集の方で修正します。そうすることで、一定の体裁が整うのです。それによって、利用する方もよけいなところに神経を使わないで、中身を見ることができます。「学校図書館・しらべ案内(探求ナビ)」も同様に、ある程度の書式が整っている方が、利用する方が短時間に情報を入手したり、判断したりできます。

【資料】

◆ 発信者を推測する

ウェブサイトの場所を記録するときに、**URL (Uniform Resource Locator)** をコピーしますね。この URL からある程度発信者を推測できます。正確にいうと、URL の表示の中に含まれる**ドメイン (domain) 名**がヒントになります。

ドメインとは、領地、領域、領域の意味を持つ英語で、ドメイン名はインターネット上にあるコンピュータを識別するための名前です。世界中に同じ名前は一つもありません。このドメインを管理している大元は、アメリカにある ICANN (アイキャン, The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers,) です。日本では JPNIC (社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター) が ICANN と連絡調整を行いながら、管理登録を行っています (実務業務は、JPRS 株式会社日本レジストリサービス¹が行っています)。

松本大学の HP は、<http://www.matsumoto-u.ac.jp/> ですが、このうちの下線部がドメイン名になります。このドメイン名から、このウェブサイトは、日本にある、おそらく「マツモト」と名のつく大学が発信しているものだということがわかるのです。

したがって主だったドメイン名を知っていると、**google** などで検索したとき、一つひとつウェブサイトを開かなくてもすむことがあります。

JPRS (Japan Registry Service) <http://jprs.jp/>

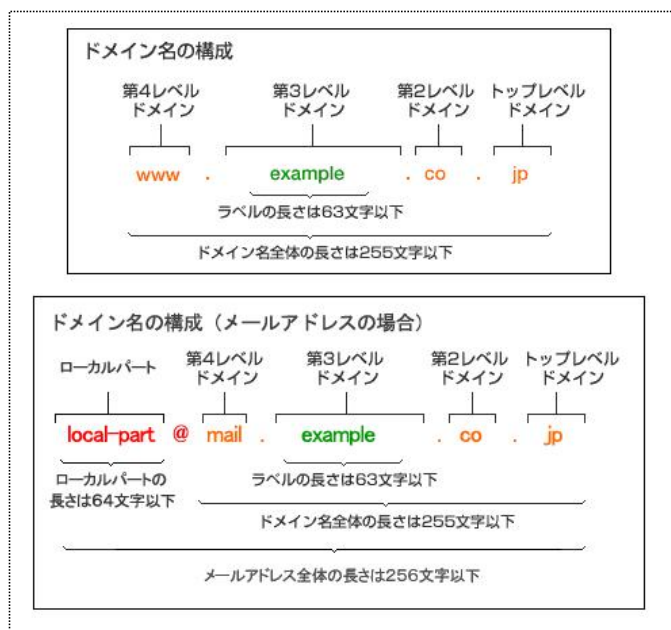


図 7-1 ドメイン名の構成
出典 : <http://www.nic.ad.jp/ja/dom/system.html>

表 7-1 ドメイン名の例²

国名トップレベルドメイン [例]		分野別トップドメイン [例]		JP の属性ドメイン [例]	
fr	フランス	com	商業組織用	go.jp	政府機関
ca	カナダ	net	ネットワーク用	co.jp	企業
uk	イギリス	org	非営利組織用	ac.jp	大学や学校法人
kr	大韓民国	gov	米国政府機関用	ne.jp	プロバイダ
au	オーストラリア	biz	ビジネス用	or.jp	法人や組合
jp	日本	museum	博物館, 美術館等 用	gr.jp	任意団体

²JPNIC を参考にした。詳しいことは <http://www.nic.ad.jp/ja/dom/types.html#gTld> に記載されている。

出典 : 『情報サービス論』増補版, 篠原由美子, 松本大学松商短期大学部, 2017, p 106-107